

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2)

事業所番号	0177600236	
法人名	株式会社マーファ	
事業所名	グループホームはなかわ	
所在地	石狩市花川東1条3丁目12番地	
自己評価作成日	2018年11月14日	評価結果市町村受理日 平成31年3月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2018\\_022\\_kihon=true&JigYosyoCd=0177600236-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kihon=true&JigYosyoCd=0177600236-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミクス総合研究所 介保調査部	
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階	
訪問調査日	平成30年12月21日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が自然と笑顔になる暮らしを提供する為、職員同士笑顔の確認を行い、その後に業務に取り組むようにしています。レクリエーション活動はもちろん、入居者様の好みの話を切り出し、話しやすい環境作りを心がけています。入居者様の気分転換を図る為、外出やイベント等を頻繁に行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、石狩市役所から東方向に位置し、道道茨戸花畔線沿いの閑静な住宅地にある2階建て2ユニットのグループホームである。ホームの玄関を開けると右側に利用者の居室が並んでおり、全室東南向きで明るい。左側には階段、事務所、台所と続き、台所から広い食堂とリビング、サンルームが見渡せる配置である。運営法人は、札幌市内で高齢者向けマンションや訪問介護サービス、ペット可の賃貸住宅、人材派遣業など多彩な事業展開をしており、事業で培った経験を運営に活かしている。ホームの理念は「あいさつ、スマイル、ことば」として、申し送り時に唱和して職員間で共有している。事業所主催の夏祭りは、以前より縮小して開催しているが、地域の方や家族の参加が50名程で、利用者の楽しみな行事となっている。遠隔地の家族にはブログやラインなども活用して報告している。また、居室のベットには、体位変換マットが全室に整備され配慮が伺える。温かい雰囲気のあるホームで、これからも地域の一人の認知症高齢者の事業所として期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/> 1 毎日ある <input type="radio"/> 2 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3 たまにある <input type="radio"/> 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/> 1 ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3 たまに <input type="radio"/> 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1 大いに増えている <input type="radio"/> 2 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3 あまり増えていない <input type="radio"/> 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は出勤時に、申し送り時にホーム理念と施設方針を唱和し意識強化を図っています。来訪者様が確認できるように共用部や、会議室等に掲示しています。	ホームの理念は、玄関と事業所内に掲示して、利用者や家族にも周知するよう努めており、職員は申し送り時に毎日唱和し、職員間で理念が共有できるよう確認し合いケアの実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	夏には夏祭りを行ない、町内へ回覧板やチラシで告知し毎年多くの方に参加して頂いています。地域のお祭り等にも出かけ、地域の方との交流を持って頂いています。冬期の除雪作業もご協力いただいております。	町内会役員や民生委員などが運営推進会議に参加しており、意見交換や情報交換など定期的に行っている。また、事業所主催の避難訓練や夏祭りなどは50人位が参加するなど地域の交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実際の介助現場における事例等や外部研修で得た知識を、運営推進会議等で報告を行い、ご家族様や地域の方に、認知症の方への理解や支援方法を理解して頂けるよう活かしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進委員会を開き、ホームでの活動報告や研修報告、また防火・防災について意見交換をし、検討し実行してサービスの向上に努めています。	運営推進会議は、市役所担当者や家族、町内会役員、民生委員、地域の方などが参加して定期的を開催し、運営状況の報告や意見交換など行い、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護相談員が定期的に来訪し、助言を頂いている。また、電話で相談したり直接市役所に出向いて相談したりする事もあります。	市役所の担当者が運営推進会議に参加しており、運営状況の報告や意見を聞くなどしている。また、介護相談員2名が2ヶ月に1回来訪しており、相談や情報を共有し関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会を行ない、身体拘束をしないケアに理解を深めています。重要事項を目のつく場所に掲示し、常に意識をしてサービスに取り組んでいます。	事業所内に身体拘束廃止委員会を設置するよう指針やマニュアルを整備して、身体拘束について毎月検討し、市担当課へ報告して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスや勉強会で、全職員に対して、虐待防止について学ぶ機会を設けている。虐待の知識を正しく持つよう、話し合いを行なっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて個々のご家族様と話し合う機会を設けて対応しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に必ず見学をしてもらい、様子を見てもらっています。契約時は口頭で説明し、疑問や質問にしっかりと答え、納得されてから署名等してもらっています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からの意見あ要望を気軽に相談できる環境作りを行なっています。玄関に苦情箱を設置するなどの工夫をしています。	ホーム便りは、毎月発行し運営状況を家族へ報告している。遠方の家族には手紙を書いて報告している。また、玄関には意見箱を設置し意見を聞く機会を用意しているが、殆どは家族の来訪時に意見や要望を聞き取り、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、当ホームの代表者も含め職員の全体会議を行なっています。職員からの意見等を聞き、ホームの運営に反映させています。	職員会議は毎月行っており、カンファレンスや夜勤専従者のカンファレンスも月1回開催している。ヒヤリハットも報告があれば週1回開催している。また、個別面談は年1回以上、実施しており、職員からの意見や提案を聞き運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理職や職員の能力に応じ、昇給や賞与に反映させている。役割を与え、向上心が持てるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加する事での意識向上、新人職員の育成は経験豊富な職員の助言や実技で教えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	市で開催している研修会などに参加し、他施設の職員の意見や体験談を参考にし、サービスの向上に努めています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	言葉だけではなく、ご本人の表情からも気持ちくみ取り、信頼される関係性を築いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が困っている事や不安に思っている事を聞き、ホームでの介護をどのように行っていくか説明し同意して頂きます。こまめに報告、連絡、相談する事で良い関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様とご家族様の要望を聞き(表情や態度からも感じとり)支援に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員一人一人が「共生・共存」に努めております入居者様と一緒に暮らしている気持ちを大切にしています。また、手すり拭き・食器洗い・調理補助・テーブル拭き等を入居者様にして頂き、暮らしを共にする同士の関係を築いています		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当ホームの行事にご家族様を招き、一緒に楽しいひとときを過ごしてもらっています。遠方ではなかなか来れないご家族様は、当ホームのブログとホーム便りを楽しみにされています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様とのご友人や知人もご来訪され、ホームで暮らしていても「なじみ」を変わらず大切にされています。なじみの理容室にも通われ続けている方もいます。	地元出身の利用者が殆どの為、友人や知人が時折来訪し歓談したり、家族と故郷の町に行ったり、行きつけの美容室やカラオケ店へ職員と出掛けるなど馴染みの関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士、助け合って暮らしている姿が見受けられます。トラブルが発生した際には、スタッフが介入しています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も状況に応じ、近況を聞いています。また、イベントにも参加してもらえよう声かけも行っています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族様に聞き、今迄の生活習慣を大切にしています。言葉で表現する事が難しい場合は、表情や仕草、ご家族様からの情報をもとに、把握しています。アセスメントシートを元にカンファレンスを行なっています。	入居時に本人や家族から意向を聞き、生活歴や馴染みのものを把握し困難の場合には日々のケアの中で、仕草や表情で理解するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで歩んできた生活環境を把握し、その人がその人らしい人生を歩み続けられるよう、支援に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人一人の身体状態・食の好み・生活習慣、癖などを理解し、職員が情報を共有し、個人に合った支援を行っています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3カ月に1度の見直し、カンファレンス参加職員からも意見を聞き取り、介護計画に反映しています。また、必要に応じてカンファレンスも開いています。	各管理者が利用者や家族の意見や要望その他の情報収集して、職員全員で検討して作成担当者が、現状に即した介護計画を作成している。見直しが3ヶ月毎に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝の申し送りで、気が付いた事は些細な事も報告し、毎日の入居者様の様子、変化時は必ず記録し、介護計画の評価・見直しを図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて、ご本人やご家族様と相談しながら、ニーズに合わせたサービスを提供しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のお店や行事に参加したり、当ホームにボランティアさんをお呼びし、一緒に楽しい時間を過ごしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回、定期訪問診療を受診しています。また、他病院への通院する場合、ご家族様の同行が難しい場合は、職員が同行しています。	専門医等のかかりつけ医は、家族が同行して受診している。協力医療機関の往診は月2回で、看護師は週1日勤務だが、24時間体制の適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームの看護師が定期的に出勤し、入居者様のバイタル測定、体調の聞き取りや雑談を行なっています。勤務日以外でも、電話やメールで相談し、適切なアドバイスを受けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は必ず情報交換を行い、ご家族様や医療機関からの相談をいつでも受け入れる体制を撰っている。早期に退院できるよう、ご家族様と医療機関とも密に報告・連絡・相談を行っています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	事前に終末期についてアンケートに回答して頂いています。ご本人の状況に応じ、管理者・ご家族様・主治医との話し合いの場を設けて対応しています。	入居契約時に重度化した場合の方針の説明をして同意を得ている。重度化した場合には、再度打ち合わせし、主治医からもの説明もして意向の確認をして、同意書を交わし看取りの対応に取り組んでいる。また、職員も緊急時の対応や看取りの対応も研修して学んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月1回の避難訓練を必ず行っています。また、応急手当や心肺蘇生法などの実技を定期的に取り入れて訓練しています。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震・台風・津波等の災害時を想定した訓練を実施。近隣住民も参加する場合もあり、協力体制を作っています。	避難訓練を毎月行っており、その内2回は消防署立会いにて実施している。火災や自然災害の津波、地震、台風など設定して、地域の方や家族の参加協力にて備蓄や備品も整備して災害対策を行っている。また、緊急通報の連絡網や避難場所の特定なども行って備えている。		
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を保ち、配慮した声かけを行なっている。居室内やトイレでの排泄介助時は、ドアを閉めるなどプライバシーを尊重した対応を心がけています。	接遇のマニュアルを整備し、内部研修を通じて、利用者の人格を尊重し、プライドを損ねないように接遇の言葉掛けに十分配慮するよう努めている。	理念に基づいて接遇の指導を行っているが、接遇研修の計画を立て、定期的を実施して、人格の尊重やプライバシーを損ねないような対応を期待する。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事量や食事内容、入浴などはご本人の意思を尊重し、自己決定ができる環境作りをしています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	リビングでワイワイ過ごした方、お部屋でゆっくり休みたい方、ひとりひとりに合ったペースで自由に過ごす事ができるよう支援を行っています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	キレイな衣類を着用して頂き、一緒にお買い物をして洋服を選んで買ってもらう事も行っています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望を取り入れ、ホームの畑で採れた野菜も使い、ホームで献立を作成して食材の買い物に出かけています。個々の能力に応じて、料理や盛り付け、後片付けなどを手伝ってもらっています。	料理は職員が行っており、利用者も一緒に手伝っている。食材は利用者の家族が農家が多い為寄贈が多い。行事食は、バーベキューやたこ焼き、お好み焼き、ケイタリング寿司などで、外食は、回転寿司やファーストフード店、ホテルのランチバイキングなど多彩な支援だ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分と食事摂取量を毎日記録し、ひとりひとりの健康管理に応じた支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・就寝時・毎食後に必ず口腔ケアを実施。入れ歯の方は、ポリドント洗浄しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を確認し、トイレ誘導を行なっています。その際、羞恥心に配慮した声かけを行なっています。	利用者個々の排泄チェック表を職員間で共有し、一人ひとりの表情や仕草を観察しながら、声掛け誘導して、トイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や乳製品を多く摂る事、また、朝はラジオ体操などで体を動かす日課を取り組んでいます。場合によっては、医師から処方された下剤を服用していただいています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	入浴は午後から行っていますが、午前中に行なう場合もあります。週2～3回の入浴を、雑談をしながら楽しまれています。リラククス効果のある入浴剤も好評化です。	週2～3回の入浴を実施しているが本人希望を大切にしている。拒否する方には無理強いせずタイミングを見計らって声掛けし、時間を決めずゆっくり入ってもらうよう利用者個々に沿った支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとりの生活習慣・睡眠パターンを観察し把握しています。寝不足や体力低下している場合は、お昼寝を促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の個人ファイルには、最新の薬剤情報をファイリングし職員に周知しています。また、処方が変わった際には、必ず更新しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の生活歴を把握し、趣味や好みを把握し、談話やレクリエーション・家事作業や畑仕事を行い、気分転換を行っています。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩や買い物に出かけたり、ホームの畑で作業をしています。年間の行事ではお花見やピクニック、花火大会、紅葉、BBQ、クリスマス会、夏まつり、食事会などに出かけています。	敷地内や近隣の散歩や外気浴は日常的に支援している。外出行事は、お花見や紅葉、日帰り温泉や泊りの温泉、紅葉山公園など多彩で、家族と青森へ3泊4日の旅行した利用者もいるなど家族と一緒に夏祭りや餅つき大会など楽しい外出支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は主にホームで行っているが、希望があった場合や、必要性のある場合は、ご家族と相談し了解を得たうえで、買い物やお祭りで、ご自身に持参して頂き会計もして頂いております。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様が希望する場合は、ご家族様などに電話をかけたり、電話の取次ぎはその都度しています。ご友人へ手紙やハガキを書いて出したりしています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所から食堂・居間・テラスを見渡すことが出来ます。居間には、活動意欲を高める遊び道具や書籍などが豊富にそろっています。壁には入居者様の写真や作成物を掲示し、家庭的な雰囲気を作っています。湿度や温度も調整され快適に過ごす事が出来ます。	開放感のある広い玄関ホールには階段があり、利用者が自由に行き来している。共用空間の真ん中に台所があり、そこから食堂とリビングとサニールームが見渡せる。採光や風通しもよく、利用者の作品が壁に飾られ、季節を感じる楽しい雰囲気を作っている。利用者は、日中は殆どリビングで寛いで過ごしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	定期的なリビングの席替えを実施しています。入居者間のトラブルの防止になるよう座席の配置の工夫をしています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口のドアに、入居者様のネームプレート飾っています。居室内には使い慣れたタンスや仏具、馴染みの物を持ち込んで居心地よく過ごす事が出来ます。	居室には、一間程の大きな収納があり、ベットと体位変換マットが各室に配置され、利用者に配慮している。利用者は、使い慣れた家具や馴染みの物を持ち参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所・トイレは車いす対応になっており、廊下に手すりを付け、歩行や移動が出来やすい様になっています。また、あまり物を置かないように安全面にも配慮しています。			